

平成 31 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果について

令和元年 9 月 1 3 日
枚方市立蹉跎西小学校

文部科学省が今年 4 月に実施した、平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には関連関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

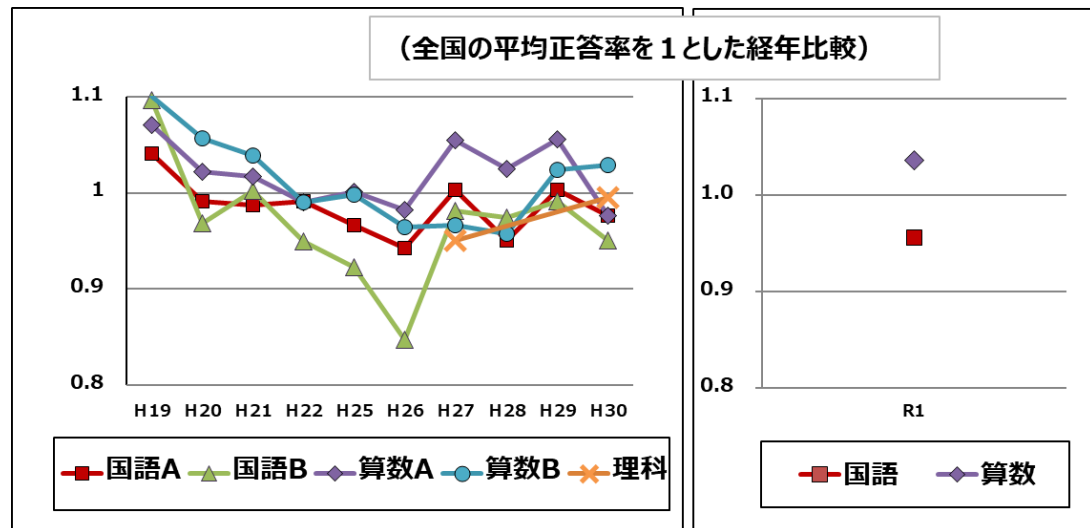
【全体概要】

学力調査の結果

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

（※今年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）



< 学力調査結果の概要 >

○国語について

→「書く能力」の観点では全国平均を上回っている一方、「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の観点で、全国をわずかに下回る結果となりました。多くの情報を理解したり、処理したりする力に課題が見られました。

○算数について

→「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」の観点で全国平均を上回りました。本校で課題として取り組んできた記述式の問題においても、複数の問題で全国平均を上回ることができました。

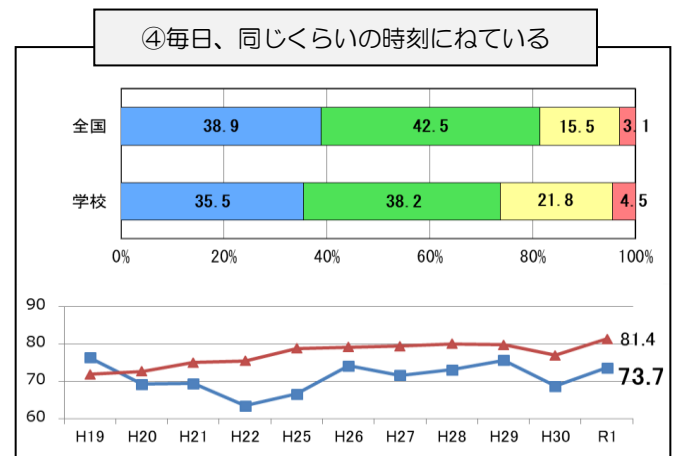
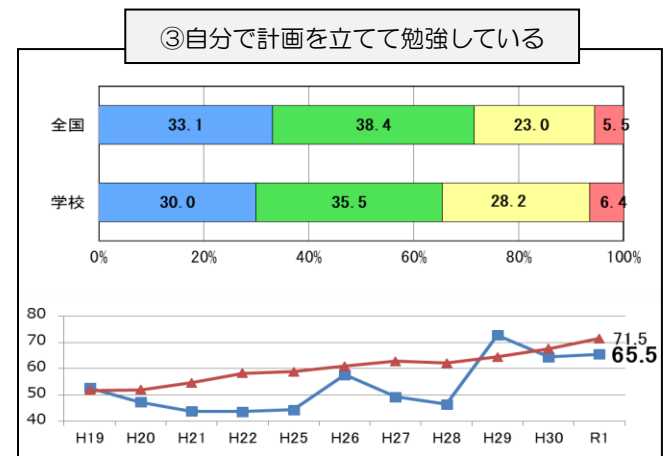
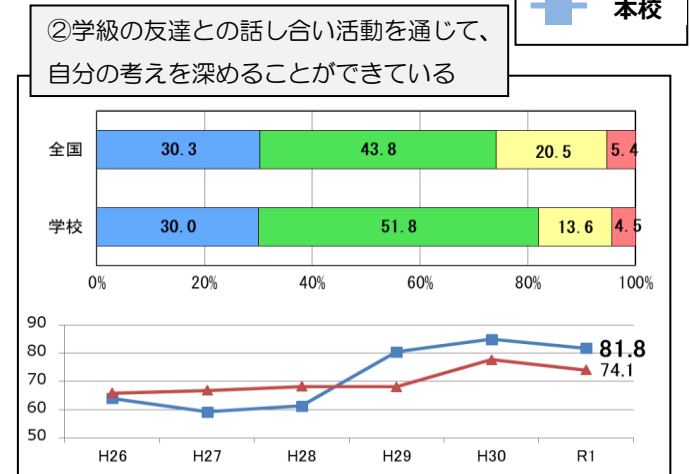
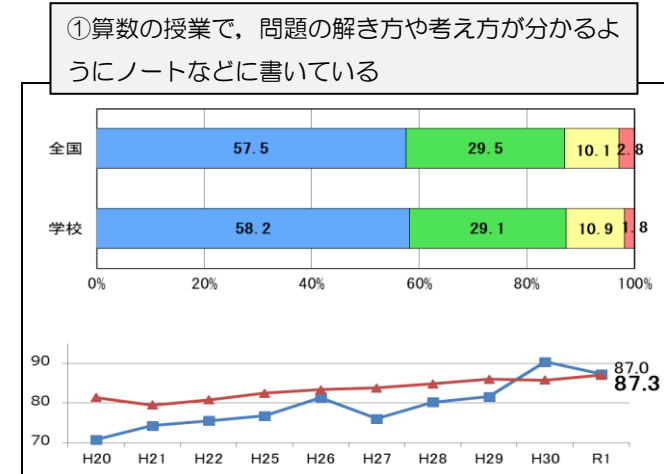
※本調査は、平成 19 年度から実施されています。

※平成 23 年度は中止（東日本大震災）、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国
■ 本校

< 質問紙調査結果の概要 >

○授業改善について（①について）→昨年度を下回ったものの、全国平均を上回りました。

（②について）→H29 年度より、全国平均を大きく上回っています。

本校での授業改善の取り組みの成果が表れたと思われます。

○家庭学習について（③について）→「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、家庭と連携しながら家庭学習を行っていますが、昨年度に引き続き全国平均を下回りました。

○生活習慣について（④について）→昨年度に引き続き、基本的な生活習慣に課題が見られました。他の質問事項の分析からもスマートフォンやゲーム、動画の普及により寝る時間が乱れてきていることが表われています。

まとめ

結果から算数が全国平均を上回ったこと、「話し合い活動」の肯定的回答が非常に高いことが今年度の成果として挙げられます。これは、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善から、自分の解き方や考え方を記述・説明させる指導の効果が表れたと考えられます。一方で、児童を取り巻く社会の変化から生活習慣の乱れが見られました。生活習慣は、児童の学習への意欲や集中力に影響があると言われています。ご家庭においてもご支援よろしく申し上げます。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

図表やグラフを用いて報告する文章を書く

1

高橋さんは、**「報告する文章」**で**《資料2》**と**《資料3》**を、それぞれどのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から5までのの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

2

現在と過去の様子を並べて示し、二つのちがいを伝えるため。

3

内容ごとに分類して示し、大まかな持ちようを伝えるため。

4

年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。

5

記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。

説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

《資料2》

公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

《資料3》

公衆電話の設置場所を示した地図

【課題】

インタビューの様子を条件に合わせて書く

3

岸さんは、町の広報紙に取り上げられていた、**「職人の大谷さん」**、手紙の友達に紹介するために、大谷さんにインタビューをすることになりました。次は、「**広報紙の記事**」を直接読んでください。

《条件》

○ インタビューの様子を条件に合わせて書くこと。

○ インタビューとしてふさわしい言葉づかいにすること。

○ 書き出しの言葉に続けて、三十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

岸さん

そのような思いをもっていたんですね。大谷さんは、他に、どのような思いや考えをもって、五十年間仕事を続けてきたのですか。

大谷さん

思いや考えですか。なかなか難しい質問ですね。

岸さん

すみません。では、五十年間仕事を続けてきた中で大切にできたことや心構えはありますか。

大谷さん

そうですね。五十年も職人をして、いまだに完ぺきだと思える仕上がりはありません。だからこそ、自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと挑戦し続けるのです。これが、ずっと大切にしてきたことですね。

岸さん

お話を聞いて、大谷さんの仕事への思いや考えが分かりました。特に、**「イ」**、まだぜひお話を聞かせてください。今日は本当にありがとうございました。

	正答率	無解答率
本校	74.5	0.0
全国	71.2	0.5

(考察)

図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題です。

自分の考えを伝えるために、どんな資料をどのように活用するかを考えることは重要です。これまで調べ活動を通して必要な情報を取り出して、新聞や発表など表現する活動を指導してきた成果が表れたと思われます。

引き続き、調べ活動や表現活動を大切にすると共に、他教科との関連を図り、国語科で身につけたことを活用できるように指導していきます。

	正答率	無解答率
本校	58.2	23.6
全国	68.2	14.2

(考察)

話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題です。

ここでは自分の思いを書き表すだけでなく、話し手の思いや考えを捉え、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる力が求められています。

近年課題として取り組んでいる「児童に記述をさせたり発表させたりするときには、表現するだけでなく、伝える相手の意図や目的を考えさせる」ことの重要性が示唆されました。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

資料の特徴や傾向を読み取り判断する

2

資料の特徴や傾向を読み取り判断する

グラフ2

市全体の水の使用量

年	市全体の水の使用量 (万 m³)
2010	1400
2013	1400
2016	1400

グラフ3

市の人口

年	市の人口 (万人)
2010	13.8
2013	14.2
2016	15.2

2010年から2016年までの、3年ごとの1人あたりの水の使用量について、どのようなことがわかりますか。

下の**1**から**4**までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、**グラフ2**と**グラフ3**からわかることをもとに、言葉や数を使って書きましょう。

【課題】

計算の仕方を解釈し、発展的に考察する

3

計算の仕方を解釈し、発展的に考察する

【ゆいなさんがまとめたこと】

ひき算では、ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、差は変わりません。このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

(2) ひき算について書かれた【ゆいなさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにままとめると、どのようになりますか。

下の□の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

わり算では、

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

	正答率	無解答率
本校	61.8	3.6
全国	52.1	11.3

(考察)

資料の特徴や傾向を関連付けて、判断した結果を言葉や数を用いて記述する問題です。

昨年の学力調査の結果分析を基に、「多くの情報から必要な情報を抜き出し、処理する力をつけること」を課題として取り組んできた成果が表れたと考えます。

引き続き、情報を取捨選択して、その情報を基に処理していく力が身につくよう指導していきます。

	正答率	無解答率
本校	24.5	9.1
全国	31.1	10.8

(考察)

示された計算の仕方を解釈し、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述する問題です。

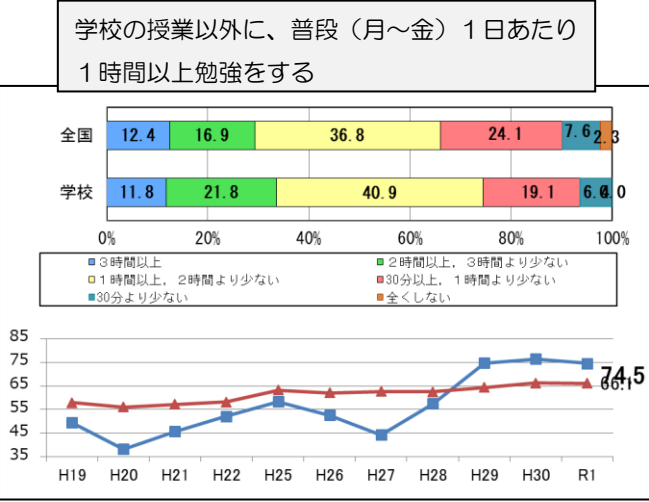
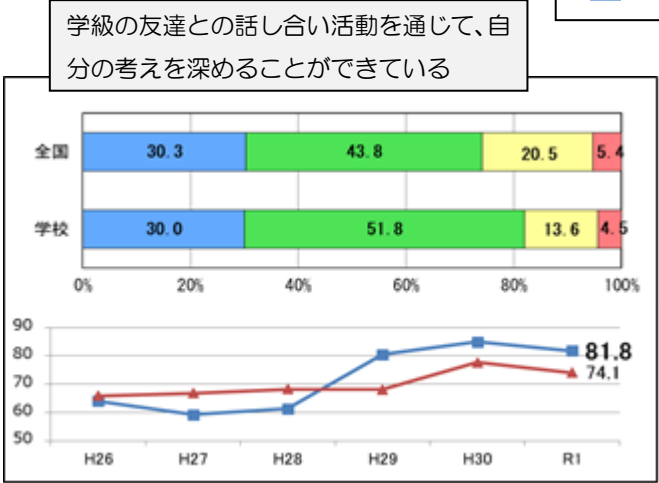
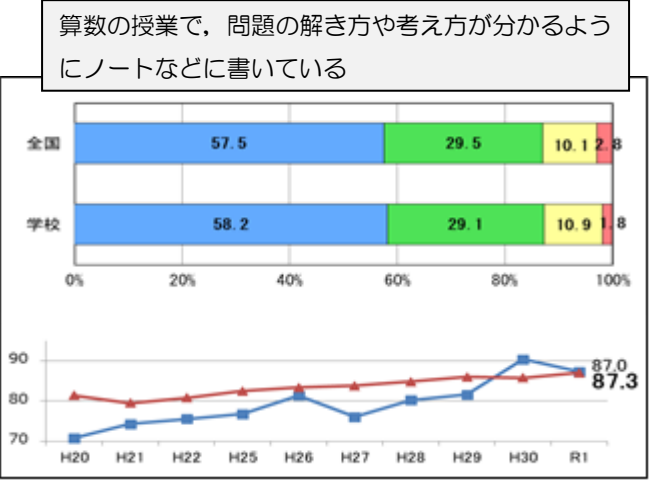
この問題では特に、条件に合わせて情報を処理する力が求められています。言葉と数を使って、問題の解決方法や考え方をまとめる指導には、これまででも精神的に取り組んできました。

引き続き、様々な形で自分の考えを人に伝える指導をしていく必要性が示唆されました。

質問紙に関する調査

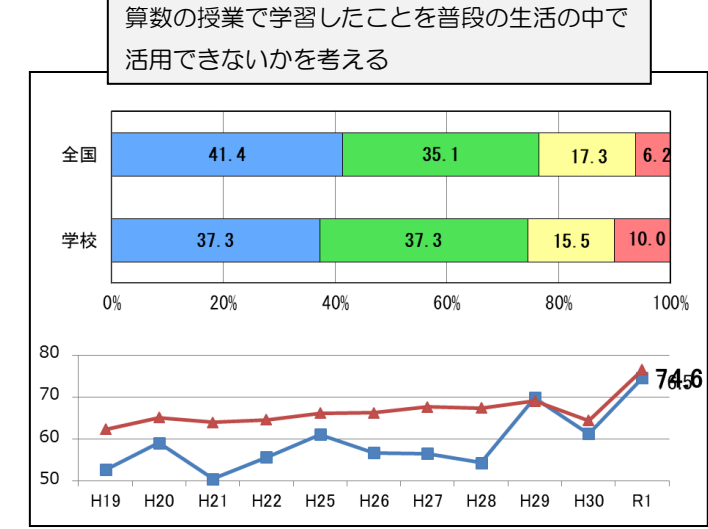
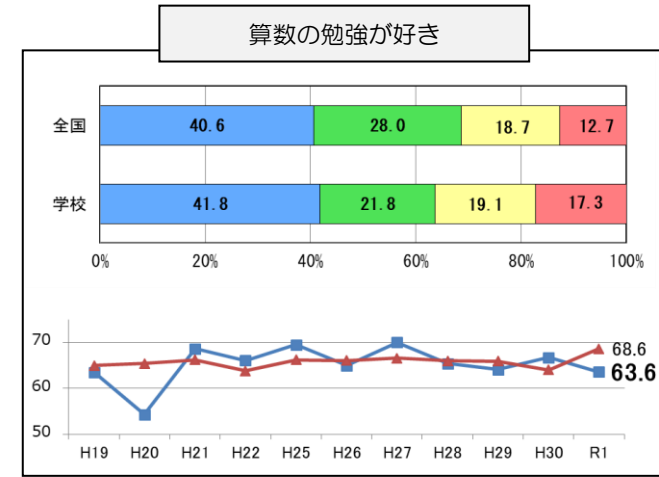
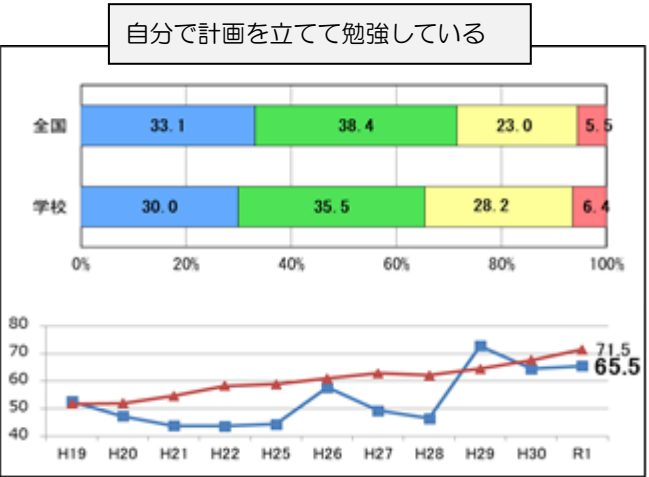
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

【成果のあった項目】



（考察）
学習においては、「算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートなどに書いている」「学級の友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めることができる」の肯定的回答が全国平均を上回りました。これは、「主体的・対話的で深い学び」に向けての授業改善によって自分の考え方や解き方をノートに記述したり、説明したりすることを意識した本校での取り組み、指導の効果の表れであると考えます。また、7割以上の児童が「学校の授業以外に、1日あたり1時間以上勉強をする」と回答しています。ご家庭での声掛け、ご支援によって引き続きご支援をよろしくお願いします。

【課題が残った項目】



（考察）
「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考える」の肯定的回答が全国平均を下回っています。これは、学校と家庭が協力して、学んだことを生活の中でいかしていく習慣をつける必要性を示唆しています。普段の生活の中でお子さんに「なぜ」「どうして」を問い、学校での学びを生活の中でいかし、児童の学力が生きる力となるようにしていきたいと思います。
また、「算数の勉強が好き」「自分で計画を立てて勉強している」の項目で肯定的回答率が低い現状から、児童が興味・関心を持てるように教材や授業改善を行う必要性が示唆されました。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

（１）授業改善について

「主体的・対話的で深い学び」に向けて知識・技能の習得（input）と自分の考え方や解き方の説明や記述（output）を意識した授業改善を進めていきます。

また、本校では、学力向上の観点から、昨年度より個別指導の充実を目指しています。給食後の30分休憩、個人懇談期間の放課後に個別指導を行い、『みんなができる。みんながわかる。』を実現していきます。

（２）学習規律について

チーム蹉跎西小学校として全職員で指導方法を共有し、「枚方スタンダード」や本校の「話し方・聞き方の目安」の定着を目指します。児童が落ち着いて授業ができる環境を整え、授業に集中できるよう取り組んでいきます。

また、朝学習では、曜日を指定して、算数の基礎計算・漢字学習・読書・国語、算数の思考力を必要とする記述式の問題を学校として統一して行うことで、基礎から応用へ総合的に学力をつけていく習慣をつけていきます。

（３）家庭学習について

「家庭学習の手引き」に基づき、宿題の定着を引き続き図っていきます。各ご家庭でのご理解、ご協力をよろしくお願いします。

また、本校では、児童に自学自習力を身に付けさせることを重点的に行っております。3年生～6年生で取り組み、学年が上がるにつれて学習の質が上がるように指導しているところです。また、「ラーニングスポット（自学自習プリント）」の充実を図り、児童が自主的に勉強するよう指導していきます。さらに、今年度も毎週火曜日・木曜日・金曜日に放課後自習教室「やる気ング」を行い、自習力を促進していきます。